

第25回

講義

これだけは知っておきたい幼児期運動指針の基本

白旗 和也（日本体育大学 体育学部 教授）

保育現場での実践に役立つよう、幼児期運動指針及びガイドブックの作成に携わる白旗教授が幼児期の運動の重要性と指針のポイントについて講演。「多様な動きを経験できるよう様々な遊びを取り入れる」「楽しく体を動かす時間の確保」「発達の特性に合った遊び」がポイントだというお話でした。



実技

毎日楽しく、運動遊び —保育者の工夫を大切に—

時本 久美子（日本体育大学 児童スポーツ教育学部 教授）

運動の発達の順序や運動能力を理解し、運動能力を高めるためだけでなくあらゆる運動を偏らないよう安全に楽しく展開する工夫が必要。保護者に幼児期の運動の重要性を理解してもらうこと。親子運動遊び、フォークダンスや身近なもの（ハンカチ、紙コップ等）を使った遊びなど運動アイデアの提供がありました。



- 参加者の声 /
- ・講義で子どもとの遊び方や関わり方、実技で親子で遊べるものを学びました。どちらも今後に活かしたいです。
 - ・とても楽しく参加できました。すぐにも保育に活かせる内容でした。
 - ・幼児運動の大切さについて改めて気づけました。

第26回

講義

成長期の子どもの食と栄養、食育

安達 瑞保（日本体育大学 児童スポーツ教育学部 助教）

保育現場や家庭で活かせる食育についての講演。身体の成長、生理的機能（口腔・消化器系、循環器系、腎・尿路系）の発達変化、精神・運動機能の発達、幼児の栄養状態やケア、栄養の基礎知識、食育のポイント等のお話。自立を尊重しつつ正しい食習慣を形成することを目指す、しつけや環境づくりなど。



実技

リトミック

鈴木 恵津子（日本体育大学 非常勤講師）

子どもの音楽リズム、表現を取り入れたリトミックの楽しさを体験しました。まずは自分の鼓動を感じ、その後サウンドシェイプを使用して楽しく拍を感じとりました。スカーフで曲の揺れやフレーズを感じとって表現したり、グループに分かれての創作ダンスと発表、あそびうたの実技を行いました。



- 参加者の声 /
- ・現況、園でもどうしようかと議題にもなっていました。何が大切で、どう伝えていこうか、方法を知れました。
 - ・子供の食について親にコメントする時の自信がついた。体を動かし楽しかった。
 - ・すぐに現場に活かせる内容で、とても助かっています。とても楽しみながら参加することができました。

第27回

講義

発達障がい児とその親を支えるために ～やりがいのある素敵な仕事～

国沢 真弓（フリーアナウンサー、自閉症スペクトラム支援士
一般社団法人「発達障がいファミリーサポートMarble」代表理事）

発達障がい児と、その親に「どう接したらよいか?」「どう伝えたらよいか?」悩んでいる支援者の方に役立つ情報の講演。発達障がいへの理解を深め、発達障がい児への接し方の引き出しを増やすこと。日々親に求められている力と、親を支える先生や支援者に求められるもの、しっかり連携し伝える力が大切!



実技

ウキウキ・ワクワク動いちゃおう!

笠井 里津子（日本体育大学 児童スポーツ教育学部 教授）

表現あそびやリズムあそびをすることで、他者と共感したり、模倣したり、あるものになりきって動くなど、心も体も開放して楽しみながら動くことを提案。フォークダンス、体ジャンケン、「ピヨピヨちゃん何ですか?」動きをまねするゲームや、食べものを体で表現したり、多様な動きを意図する「草むら探検」等。



- 参加者の声 /
- ・支援するのは直接は児童ですが、家族支援そして社会の雰囲気良くすることも大事に思いました。午後は自分で自分の体をコントロールすることの楽しさやアイデアをいただきました。
 - ・独学では学べない内容でしたので、午前も午後も大変勉強になりました。